様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年５月７日現在

機関番号：３２６０６
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2011
課題番号：２０３２００７４
研究課題名（和文）　「生活のための日本語」に関する基盤的研究：段階的発達の支援をめざして
研究課題名（英文）　Foundational study on “Japanese language for living in Japan”

研究代表者
金田　智子（KANEDA TOMOKO）
学習院大学・文学部・教授
研究者番号：５０３０４４５７

研究分野：日本語教育学
科研費の分科・細目：人文社会系・人文学・言語学・日本語教育
キーワード：生活日本語、日本語能力、ニーズ調査、シラバス

１．研究計画の概要

本研究は，在住外国人が社会の一員として地域に根づき，十全な生活を送ることを可能にするために，(a)「生活に必要な日本語の力とはなにか」を明らかにするとともに，(b)その習得を促すための到達目標を段階化して示し，(c) 段階的成長を促すための方策を提案する，という 3 つのことを目的とする。この目的のために，以下の調査を行う。

(1)各種生活場面（接触場面）における在住外国人及び日本人の言語使用の実態調査
(2)在住外国人の言語使用に関する，在住外国人及び日本人双方の視点に立ったニーズ調査
(3)在住外国人の言語能力に対する認識・評価に関する調査
(4)在住外国人の学習リソース利用，ストラテジー利用の実態に関する調査

２．研究の進捗状況

(1)在住外国人の言語使用の実態，日本語学習のニーズを明らかにするため，「生活のための日本語：全国調査」を 2008 年に実施した。この調査では，全国の在住外国人（回答者数 1,662 名），日本人（回答者数 1,176 名）それぞれに対し，アンケート調査を行った。在住外国人の言語使用の状況や学習ニーズ，外国人に対する日本人の言語使用実態や意識に関する全国的な傾向が明らかとなった。たとえば，日本語の能力の高低に関わらず，火災・救急・警察への連絡という緊急時の対応に関するニーズが高いことがわかった。さらに，外国人に対するアンケート調査については，質問紙で用いた 105 の行動（14 場面・テーマ）に関し，実行頻度による再分類，地域や子どもの有無等による分析を行った。また，日本人対象のアンケート調査の結果との比較を行い，接触場面における言語使用における外国人と日本人の意識の相違に関する分析を行った。

全国調査の分析結果については，速報版を 2009 年 5 月に刊行し，英語，韓国語，中国語の翻訳版もホームページ上で公開した。さらに，2010 年に中間報告書を刊行した。同時に，学会発表，論文発表を積極的に行った。

(2)在住外国人が日本語を用いることの困難度や重要度，その原因・理由を明らかにするため，「生活のための日本語：浜松調査」を 2010 年に実施した。(a)アンケート調査，(b)インタビュー調査，(c)J-CAT（Japanese Computerized Adaptive Test，インターネット上で受けることのできるテスト）による日本語能力測定の 3 種の方法により，101 名の在住外国人に関するデータを収集した。アンケート調査では，2009 年の全国調査と同様に，105 の行動に関して，実行頻度，困難度，重要度を調べたが，その結果と日本語能力，職種等との関係に関する分析，困難あるいは重要と感じる理由の分析に着手した。2011 年 3 月に，分析結果の速報版を刊行した。

３．現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

全国調査，浜松調査ともに，計画通りに実施し，結果の分析及び公表活動も順調に進めることができた。

４．今後の研究の推進方策

(1)2011 年度（最終年度）は，これまでの調

査結果に基づき，「生活のための日本語」の一覧を完成する。この一覧は，日本において生活をする上で必要と思われるものをまとめたものだが，個々の学習者あるいは学習者グループに対して用いるにあたり，可変性のあるもの，学習者の成長や社会生活の拡大に伴って，段階的に整理することのできるものとすることを目指す。そのために，調査結果及び一覧案の公表活動（ワークショップ等）を通じ，地域の日本語教室の運営者や指導者からの評価を得る。

(2)「生活のための日本語」一覧の普及活動（試用推進）を通じて，調査研究結果の教育現場における活用をはかる。

５．　代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）
1.森篤嗣(2011)「職種別に見た滞日年数と言語能力の相関－日本語能力自己評価と言語行動可能項目数を指標として－」『社会言語科学』13(2)，97-106.【査読有】
2.岩田一成(2010)「言語サービスにおける英語志向－『生活のための日本語：全国調査』結果と広島の事例から－」『社会言語科学』13(1)，81-94.　【査読有】
3.宇佐美洋(2010)「実行頻度からみた『外国人が日本で行う行動』の再分類－『生活のための日本語』全国調査から－」『日本語教育』144，145-156.　【査読有】

〔学会発表〕（計６件）
1.金田智子・福永由佳・黒瀬桂子「外国人に対する日本人の言語行動と意識」社会言語科学会，2009 年 9 月 19 日，京都大学.
2.金田智子「『生活のための日本語』全国調査:外国人調査の概要」日本語教育学会，2009 年 5 月 23 日，明海大学.
3．福永由佳・吉田さち「日本語学習経験による分析」日本語教育学会，2009 年 5 月 23 日，明海大学.
4．森篤嗣「居住地域による分析－都市規模と外国人集住率に着目して－」日本語教育学会，2009 年 5 月 23 日，明海大学.
5.宇佐美洋「『外国人が日本で行う行動』の，因子分析による再分類－各行動の実行頻度の相関から－」日本語教育学会，2009 年 5 月 23 日，明海大学.

〔図書〕（計３件）
1．「生活のための日本語」研究グループ(2011)『「生活のための日本語：浜松調査」結果報告＜速報版＞』，全 16 ページ.
2．金田智子他（2010)『「生活のための日本語」に関する基盤研究－段階的発達の支援をめざして－＜中間報告書＞』,全 218 ページ.
3．独立行政法人国立国語研究所学習項目グループ・評価基準グループ(2009)『「生活のための日本語：全国調査」結果報告＜速報版＞』，全 16 ページ.

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ：『生活のための日本語：全国調査」結果報告＜速報版＞』(日本語，英語，中国語，韓国語版）の掲載

http://www.ninjal.ac.jp/products/nihongo-syllabus/research/